



アメリカの文化の一つ「養子縁組」

米国国務省の情報によると、アメリカでは平成22年に11,058人の未成年が養子縁組として引き取られました。厚生労働省の情報によると、同じ時期に、日本では309人の未成年が養子縁組として引き取られました。私がこの統計を見た時、とても驚き二つの疑問がありました。アメリカの養子縁組件数が多いのでしょうか。それとも日本の養子縁組件数が少ないのでしょうか。確認したところ、どちらも正しいと言えます。アメリカは、養子縁組件数が最も多い国なのです。今回紹介したいのはアメリカの養子縁組についての文化です。

アメリカでは、国内の孤児院だけでなく、外国から養子を引き取ることも多いです。私の友達の中で3人は養子縁組で、その内1人が外国から引き取られました。実は、私のお父さんも養子縁組です。両親のいない子供や貧困家庭に生まれた子どもの力になり、手助けをしたいと思います、自分の家族に養子を受け入れます。養子を受け入れる事は本当に平凡なことですが、国民は養親をものすごく尊敬しています。

養子を引き取る理由として、貧困家庭に生まれた子にも良い人生を送ってほしいために引き取るという理由があります。子ども達の役に立つことは自分の義務だと考え、発展途上国などからの養子を引き取ります。養子になる子どもの幸せを願っているのは養親だけではなく、養子に出した実親も自分の子に素晴らしい人生を送ってほしいと願っているのかもしれない。そのほかに、親になりたいくても理由があり子を授かる事ができなかった人も養子を引き取ります。

現在、養子縁組はアメリカの人口の2%にのぼり、アンジェリナ・ジョリーなどの有名人も自分の家族に養子を受け入れた事でニュースになりました。アメリカ人から見ると、養子縁組はアメリカの文化の一つとも言えます。

Adoption: Another Part of American Culture

According to information published by the United States Department of State, American couples and families adopted 11,058 children under the age of 18 in the year 2010. In that same year in Japan, according to a study published by the Japanese Ministry of Health Labor and Welfare, only 309 minors were adopted in the entire country. When I looked at the difference between these two numbers, I was surprised to say the least. No matter how you feel though, this data begs the question "is America adopting more than normal, or is Japan adopting less than normal?" As it turns out, after some research, both are true. In fact, the United States has the largest number of adoption cases each year, more than any other country in the world. This month, I would like to briefly talk about the factors that might make adoption so desirable to Americans.

In America, adoption is highly common and children are adopted not just domestically, but from other countries around the world as well. Among my friends, 3 are adopted, one of whom was adopted from a foreign country. Actually, my dad was adopted as well! Most Americans do not consider adoption to be a bad thing. In fact, the opposite is true. Overwhelmingly, people feel that adopting a child whose parents or legal guardians would otherwise be unable to provide for the child, to be a wholesome and honorable act. For this reason, adoptive parents are respected in American culture.

There are many reasons why one might adopt, but probably the most common is to provide a better life and greater opportunities for a child in need. There are those who feel that because they have been so lucky in life, it is their duty to help those who, by no fault of their own, have not been so fortunate. In many cases, it is not just the adoptive parents who wish to provide a better life for the child. Parents who put their own child up for adoption often understand that, given their own circumstances, they will not be able to provide this child with the life they feel their child deserves. Similarly, there are some people who dream of being parents, but for one reason or another are not able to become pregnant themselves. This is also a reason that one might choose to adopt.

Currently, people who were adopted (children and adults) make up about 2% of the population of the United States. Celebrities like Angelina Jolie and Brad Pitt have even made major headlines because of their adopted children. I think that America's view on adoption is unique, and that is what makes it so prominent in our culture.



ひが しんたろう
比嘉 真太郎ちゃん(0歳)前田在

「てだっ子STUDIO」写真募集

●日頃の子どもの写真を郵送または画像データをメールで毎月月末までに送付してください。
窓口へ直接提出も可。集合写真は不可。
※被写体の子どもの氏名(ふりがな)・年齢(0か月、1歳など)・居住地区(安波茶・伊祖など)一言コメントの記入を忘れずに!



くぼた ゆず
久保田 柚朱ちゃん(0歳)西原在



ねま こうが
根間 煌石ちゃん(0歳)大平在

〒901-2501 浦添市安波茶1-1-1
浦添市役所 国際交流課
☎876-1234(内線2613・2614)
E-mail:kokusai@city.urasoe.lg.jp

ハイサイ こちら市長室!

「芸術の春」

みなさん、ヤクルトスワローズのキャンプはご覧になりましたか? さすがに今年のスワローズキャンプは、14年ぶりのセ・リーグ制覇の後ですから観客も大幅に増えて賑わっていましたね。それと、たまたまオークには参加されましたか? 私も初日の5キロコースに参加しました。土曜日は雨模様で少し肌寒かったのですが、日曜日は晴天にも恵まれ多くのウォーカーにも楽しんで頂けたと思います。ところで、浦添市の春の3大風物詩をご存知ですか? そうです「ヤクルトキャンプ」と「沖展」です。その第68回沖展がいよいよ3月19日(土)から始まります。浦添市では芸術の秋ならぬ芸術の春の到来を沖展が告げてくれるのです。大した

絵心もなく、アートに対する見識もない私ですが、そんな私でも沖展会場では作品を通して届けられるメッセージに圧倒されてしまいます。絵画に書道、彫刻に織物、写真にグラフィックデザインなどなど、まさにアートのオールスター展です。できれば3時間くらいは余裕を持ってご来場頂いて、じっくりとたつぷりと私たち沖縄の春を彩る美の祭典を心ゆくまでご堪能いただけたらと思います。

今回、沖縄タイムス社様から市内小中学校に通う全ての子ども達に両展の共通無料招待券を贈呈いただきました。是非、子ども達と一緒に芸術鑑賞なさることをオススメします。子ども達は大人に比べて素直で真つすな感受性を持っています。きつと数ある作品の中から自分好みの逸品を探し出し、何かを心に残してくれることと思います。さあ、春がやってきます。あなたの心にも、うりずんの風を。



▲昨年の「沖展」の様子。たくさんの方々が訪れていました。

問い合わせ 秘書課
☎876-1234
(内線2563)



浦添市長
松本 哲治

文化課発信 うあむー ありんくりん 第12回

風光明媚だった牧港の入江

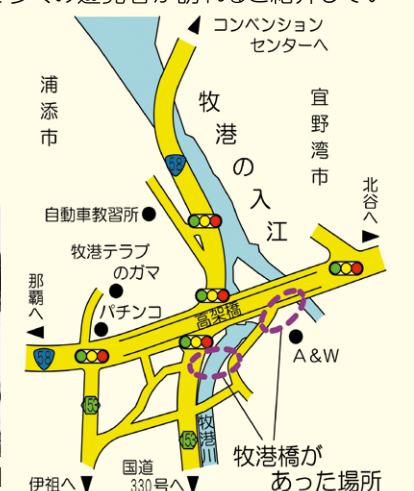
戦前の地誌や紀行文などで浦添を紹介する場合、浦添城跡と共に必ずと言っていいほど登場するのが牧港です。その多くは源為朝伝説についてなのですが、実は風光明媚な名勝地としても紹介されているのです。昭和初期にここを訪れた山崎正重博士はその風景を「峨々たる巖頭に千古の緑を湛ふる青松は波穏やかな入江の水に影を浸して物静か」と書き留めています。また「何處となく詩的趣を具え」や、一年を通じて多くの遊覧者が訪れると紹介している書物もあります。画題としても画家の創作意欲をかき立てたようで、古写真も多く残されています。

入江の奥には7連アーチの石橋が架けられていました。この牧港橋は1735～36年の改修で美しく堅固になり、その姿を雲や霞がたなびく様子に例えて「あいたい」と言われたことから入江の一景物だったことでしょう。

牧港橋は沖縄戦で破壊され、入江の埋め立ても進みかつての面影をうかがうことは難しくなっていますが戦前の牧港の絵画・写真は『牧港岩山の宜野湾ノ口墓』(浦添市教育委員会編)で紹介していますので市立図書館でご覧ください。



▲昭和7年撮影の牧港(部分)[熊本県立図書館蔵]



問い合わせ 文化課 内線6214・6217